



6月度 定例会報告 ～コンパクトシティを考える～

6月10日、未来を築く子供たちの将来の都市をイメージ「2050年の相模原～コンパクトシティを考える」と題して、定例会を開催した。会員15名が参加。初めに唐澤会員が自ら調査した「コンパクトシティ」について情報提供。次に中嶋からコンパクトシティを考える上での持続可能な都市に必要なポイントを1)人口減少社会への対応、2)環境との共生、3)歴史文化の醸成、4)コミュニティの維持、5)地域経済の発展と報告。一方、渡邊会員からは、環境モデル都市アクションプランの概要とその例について報告。その後の意見交換会では活発な発言が交わされ有意義な定例会であった。(中嶋)

コンパクトシティを考える

少子高齢化が進み、人口は減少していく。市街地を拡大していった今までは逆に、これからは、市街地を小さく保ち、肩を寄せ合い助け合いながら生活することが求められるのではないのでしょうか。コンパクトシティは、郊外化や少子高齢化などの問題を解決するためのヒントだと思います。40年後の相模原を想像してみて、コンパクトシティの重要性を感じました。(唐澤)

コンパクトシティについて

人はいかに住まうことで、より幸せになっていくか。バブルの時代が終わり、石油の枯渇に代表される資源の制約、地球温暖化という限界など、経済・環境の持続不可能性が明確になった現在、新たな幸せの形を作るためのまちづくりの方向性、ライフスタイルの変革が模索されている。その一つの方向性が、「コンパクトシティ」である。

わが「まち意識を育てる地域のまとまり(歩いて用が足せる範囲)の中で、住民の日常生活がある程度可能となるような自律性を持ち、住民が自らのまちのあり方を発想し、地域の自然や歴史、文化などの個性を大切にしたまちづくりを自ら、実践していくことによって、安全で安心して快適に暮らすことのできる生活圏を築いていく。そのような、多様性を持った自律的な生活圏がある地域に複数存在し、それらが交流・連携して構成されていくまちの姿が「コンパクトシティ」の考え方であるとしたら、人は希望や夢を感じることができようか。相模原を基盤とする、「コンパクトシティ」のビジョンを皆さんと一緒に創り上げていきたいと願います。(渡邊)

その他の会員意見

- ◆相模原市も想定では、平成33年にピークを迎える。それを想定してまちづくりをすることが重要。(中村)
- ◆「コンパクトシティ」についての今回の説明は目から鱗だ。これを本当に子供達に説明して分かる状態にするためには、私達も更に知見を深めなければならない。さもないと(子供向けの)提言書の作り込みができないと思っている。(原)
- ◆年齢を65で引退と区切るのではなく、働ける人は長く働いてもらうような環境作りをすることが重要。(櫻内)
- ◆ヨーロッパでは駅の周りに、老人施設があり、利便性をはかっている。しかし単純にそうではない人はそこには集まらない。日本は逆に、街中に商業施設が集まり若者が集まる街をつくってしまった。(清水)
- ◆現在シャッター通りすなわち商業地が再生する方法を考えることも重要だ。(浦上)
- ◆都産研的というとどうやって適正な縮小を提言していくかということが必要。その中で多様な特性をどのように活かすかが課題。例えば上溝はお祭りに特化したまちづくり、他の地区は大学を活かしたまちづくり、森林・公園を活かしたまちづくりというようなコンパクト化をしていけば、住民が選択することができ。(長崎)



● 藤野町北部地域への再訪～「にほんの里100選」に選ばれた佐野川地区を中心に～

一昨年に好評でした9月全体会(宿泊研修会)in藤野「陣馬の森で未来を想う」に続き、本年も7月11日～12日に藤野町を訪ねます。この計画に際し、当会でも度々交流させていただいている藤野町商工会の佐々木会長が会長をなさっている「ふじの里山くらぶ」の絶大な協力をいただき企画いたしました。前回よりもう一步踏み込んだ藤野町北部地域の魅力を満喫します。ふるってご参加ください。また、宿泊の定例会ですが、部分参加も可能です。◀詳しくは、裏面のご案内をご覧ください。▶

佐野川地区緑沢の茶畑



石井家住宅

6月の定例会では「コンパクトシティ」について学習しました。藤野町北部地域は過疎化が進んでおり将来は「限界集落」とみなされてしまいそうな世帯数や人口構成かもしれません。しかし、「ふじの里山くらぶ」や、様々な地元の活動が自発的かつ、活発であることが、幼年人口は沢山抱えているが地域の活動を支える人が少ない「都心部」に比べてはるかに力強いコミュニティーあることに気がつきます。相模原での「コンパクトシティ」の1つのモデルとしてのヒントがありそうです。今後の都産研の研究に役立つことでしょう。(7月担当者:原 保美、八木大二郎、渡邊 敦、長崎克央)

藤野町北部地域への再訪

～「にほんの里 100 選」に選ばれた佐野川地区を中心に～

今回は、先頃「にほんの里 100 選」に選ばれた佐野川地区を中心に藤野町北部の里山の自然や文化に触れると共に、相模原市唯一の国指定重要文化財（建造物）である「石井家住宅」を訪ねるなど、地域の歴史を学びます。さらに、陣馬山の麓に棲み、藤野の土で作陶をしている「やきもの家」柴代直樹さんの自作穴窯を訪ね、その作品にふれます。

この計画に際し、「ふじの里山くらぶ」のご協力をいただき、同くらぶ会員のご案内により、藤野北部地域の自然・文化・歴史などを満喫します。ふるってご参加ください。

7月担当者：原 保美、八木大二郎、渡邊 敦、長崎克央

日時	平成 21 年 7 月 11 日（土）午後～12 日（日）夕方			
訪問先	相模原市藤野町佐野川地区・沢井地区			
宿泊	陣馬の湯 陣溪園（相模原市藤野町吉野 1848 電話 042-687-2537）			
参加費	会員	全行程：5,000 円	11 日のみ：3,000 円	12 日のみ：1,000 円
	わがザ-バー	全行程：7,000 円	11 日のみ：3,500 円	12 日のみ：1,000 円
行程	下記の通り			左記以外の参加は要相談。ただし、12 日昼食は別途実費精算
				案内図↓

日	時間	内容
	(14:28)	JR 相模原駅発横浜線がお勧め)
11	15:15	JR 藤野駅集合(第 1 次)バスにて陣溪園へ
	15:30	陣溪園到着 その後、沢井地区栃谷の散策:柴代さんの穴窯、ゆずの里、眺めの良い古民家 etc. or 宿にてのんびり過ごす
	17:30	JR 藤野駅集合(第 2 次)バスにて陣溪園へ
	18:00～	研修会 ふじの里山くらぶ 永井委員長より、同くらぶの活動紹介など
	19:00～	懇親会 地域の方々+参加者で交流 (皆さん、早く寝ましょう by 風紀委員)
	8:45	JR 藤野駅集合(第 3 次)バスにて陣溪園へ
	9:00～	陣溪園出発 マイクロバスにて、にほんの里 100 選に選ばれた佐野川地区の和田(土蔵の街並み)・鎌沢(茶畑)へ移動し散策 (終日、里山くらぶの小林氏の案内付き)
12	昼食	ヒミツ (実費となります)
	午後	上岩に移動し、室町時代の建築と推定される石楯尾神社本殿と、ユニークな舞台を持つ神楽殿などの見学の後、沢井地区に移動し、石井家住宅の見学と、お茶を一服
	～16:00	上記行程を終え、宿へ一旦戻り、自家用車で来た方を降ろし、帰路。途中藤野駅・相模原駅などを經由し会議所へ
	18:00 頃	全行程終了



時間・場所・行動エリアなどを○で示す

参考 URL : 「ふじの里山くらぶ」 <http://www.shokonet.or.jp/fujino-sato/> 陣溪園 <http://jinkeien.fc2web.com/>
 にほんの里 100 選 <http://www.sato100.com/top.html> 石井家住宅 <http://www5.plala.or.jp/ishii/>
 柴代さん紹介ブログ「芸術の小径」 http://komichi-blog.at.webry.info/200905/article_20.html

FAX:042-753-7637 t-hayashi@ssp21.or.jp 相模原商工会議所内 都産研事務局 行 平成 21 年 月 日

都市産業研究会 7 月度 宿泊定例会 出欠席連絡表	会社名
7 月 11～12 日の宿泊定例会に 出席・欠席 します	
出席の場合	全行程 11 日のみ 12 日のみ
集合時間	第 1 次集合 第 2 次集合 第 3 次集合
交通手段	電車・送迎バス 自家用車
	連絡先：当方より連絡が付きやすい、tel / e-mail など
(↑該当箇所には○印をお願いします↑)	

★会員以外のオブザーバー参加を大歓迎しています★申込み締切:7月6日★当日連絡先 TEL: 090-9147-4363★